

第5回 SPARC Japan セミナー2012

「Open Access Week - 日本におけるオープンアクセス、この10年これからの10年」

リポジトリで世界とつながる： COAR 第3回年次集会(スウェーデン) 参加報告

城 恭子

(DRF/北海道大学附属図書館)

講演要旨

2012年5月21日-22日にスウェーデンのウプサラで開催された、オープンアクセス・リポジトリ連合（COAR: Confederation of Open Access Repositories）の第3回年次集会および総会に出席した。年次集会および総会の議事内容について、概要を報告する。



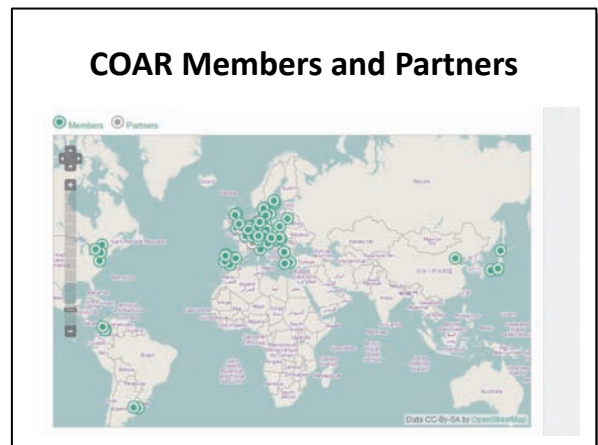
城 恭子

2002年より図書系職員として勤務。2010年から機関リポジトリ業務を担当。

COAR 概要

COARとは、Confederation of Open Access Repositoriesの略称で、ヨーロッパのリポジトリ連携プロジェクトであるDRIVERプロジェクトが中心となり、2009年10月に発足した組織です。ヨーロッパをはじめ、南米、アジア、北米にわたる25カ国・90以上の組織から成る国際的なオープンアクセス・リポジトリの連合で、世界中にメンバーが広がっています（図1）。啓蒙と情報共有、eインフラストラクチャー、人材育成など、オープンアクセスをめぐるさまざまなファクターをトータルでサポートすることを目指しています。

これはCOARのウェブサイトのトップページで、中央の写真は今回の年次集会で撮影された参加者の集



(図1)

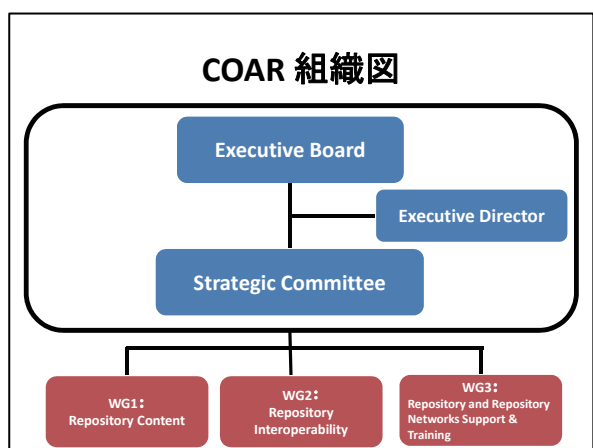
合写真です（図2）。

COARには、1人のエクゼクティブディレクター、3人のエクゼクティブボード、16人のストラテジックコミッティーから構成される運営委員会があり、その下に実働部隊である三つのワーキンググループ（WG）が設置されています（図3）。COARのミッションである、情報共有、eインフラストラクチャーの整備、人材育成を、それぞれのワーキンググループがテーマとして担っています。

日本からは、COAR立ち上げ当時からメンバーとして、国立情報学研究所（NII）とデジタルリポジトリ連合（DRF）などが参加しています。また、エクゼクティブボードやストラテジックコミッティーのメンバーにも加わり、COARの運営に積極的に参画しています。各ワーキンググループにもメンバーを輩出し、特にWG2（相互運用性）、WG3（人材育成）



（図2）



（図3）

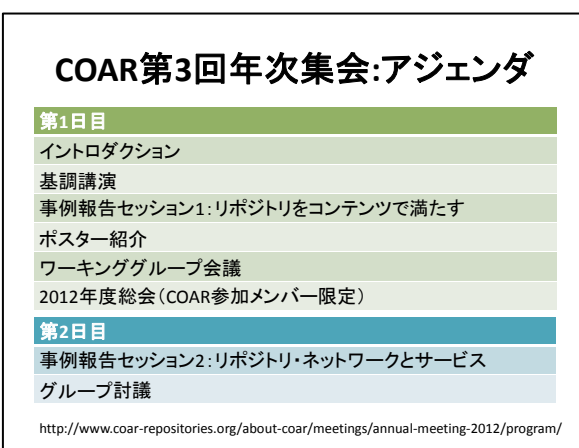
ではサブチーフを務めるなど、COARの運営に積極的に貢献してきたという経緯があります。

COAR 第3回年次集会

第3回年次集会は、スウェーデンのウプサラ大学を会場として、今年の5月21日から1日半の日程で行われました。19カ国から約50名の参加者が集まり、日本からはNIIの武田英明先生、DRFとしては大阪大学の土出郁子さんと私が参加させていただきました。開催場所となったウプサラ大学図書館は、非常に大きく歴史を感じさせる立派な図書館で、たくさんの学生さんが利用されていました。

年次集会のアジェンダです（図4）。詳細についてはスライドの下に示したURLからご覧いただけます。全体のプログラムを大まかに説明すると、まず国際的な事例の紹介や情報を共有することを目的としたセッションとして、イントロダクション、基調講演、事例報告、ポスター紹介などのセッションがありました。また、COARのミッションを遂行する実働部隊の意見交換の場として、ワーキンググループ会議がありました。さらに、COARという組織を構成するメンバーの意見交換、合意形成の場として、2012年度総会がクローズドな形で行われました。

それでは、年次集会の内容をセッションごとに簡単にご紹介していきます。なお、各発表のスライド資料はCOARのウェブサイトで公開されているので、ご興味を持たれた方はぜひご覧ください。



（図4）

イントロダクション・基調講演

まずイントロダクションとして、ホストであるスウェーデンから、国内におけるオープンアクセス活動の取り組みについて報告がありました（図5）。スウェーデン国内の大学や研究機関など30の機関が参加する共同リポジトリコンソーシアム「DiVA」は、同じシステムで組織ごとにローカルなインターフェースを持っており、日本の広島県大学共同リポジトリシステム（HARP）などと同様の仕組みになっているということでした。

続く基調講演では、中国科学院の Zhang Xiaolin 博士から中国の事例の紹介がありました。中国では非常に急激にオープンアクセス活動が盛り上がり、国内のリポジトリ発展の様子と、それに対して中国科学院が進めているサポート体制の整備について紹介がありました。中国におけるオープンアクセス活動が、中国科学院の強力なリーダーシップによって牽引されていることを強く印象付ける講演でした。なお、中国では今年のオープンアクセスウィーク中に中国科学院主催のオープンアクセスセミナーを行っており、COAR もワークショップを出展するなどの協力をしているということでした。

事例報告セッション

Topics 1 では、「オープンアクセスとライセンスの両者を効果的に推進している優良事例」というテーマで、ドイツとアルゼンチンからの事例報告があり

イントロダクション・基調講演

- Intro.:スウェーデン
 - OpenAccess.se(<http://www.kb.se/openaccess/>)
 - 国内の大学等の共同リポジトリコンソーシアム: DiVA(<http://www.diva-portal.org/>)
- Keynote:中国
 - 中国科学院国家科学図書館/Zhang Xiaolin博士
 - 国内で機関リポジトリ急増中
 - 実務担当者向けサポート体制の整備

※スライド資料はCOARウェブサイトで公開されています
<http://www.coar-repositories.org/about-coar/meetings/annual-meeting-2012/presentations-and-abstracts/>

(図5)

ました（図6）。ここでいうライセンスとは、出版社や学協会と交渉を行って、機関リポジトリなどに公開してもよい利用許諾の範囲を協議する取り組みのことです。

ドイツでは国家レベルでライセンスを推進しており、これまでの交渉におけるノウハウを蓄積したガイドラインをウェブで公開しているということです。アルゼンチンからは、ラテンアメリカの9カ国18機関が参加するリポジトリ連合、LA REFERENCIAの取り組みが紹介されました。国単位と並行して、南米地域全体としてオープンアクセス活動を推進している様子が非常に印象的でした。

Topics 2 では、「リポジトリ・ネットワークとサービス」をテーマとした事例報告がありました（図7）。まずCOARのWG2から、リポジトリ同士の相互運用性を高めるための、ロードマップ策定計画の進捗状

事例報告セッション(Topics 1)

- テーマ: オープンアクセスとライセンスの両者を効果的に推進している優良事例
 - ドイツ
 - 出版社・学協会と国家レベルで交渉
 - 交渉ガイドラインをWEB公開
(<http://www.nationalizenzen.de/open-access>)
 - アルゼンチン
 - 国単位・南米地域単位のOA推進
 - ラテンアメリカのリポジトリ連合: LA REFERENCIA
(<http://lareferencia.redclara.net/>)

(図6)

事例報告セッション(Topics 2)

- テーマ: リポジトリ・ネットワークとサービス
 - Intro.WG2
 - リポジトリ同士の相互運用性を高めるロードマップ策定計画
 - インド
 - 国内/海外ネットワークの重要性 (Skype 中継)
 - 日本
 - 三つのネットワーク (研究者、システム、リポジトリ管理者)
 - EU
 - OpenAIRE(<http://www.openaire.eu/>)の発展形: OpenAIREplus

(図7)

況について報告がありました。

続いて、インド、日本、EUの取り組みが紹介されました。日本からは、NIIの武田先生から、研究者、システム、リポジトリ管理者という三つのネットワークという視点から、日本の状況について報告がありました。質疑応答の時間には、報告の中で紹介されたDRFの関連プロジェクトである、学協会著作権ポリシーデータベースなどの取り組みについて多くの質問が寄せられ、日本のリポジトリに対する世界の関心の高さが伺われました。

また、インドからの発表はスカイプ中継で行われました。インドのリポジトリの普及はまだ緒に就いたばかりですが、今後の発展にはリポジトリ同士のネットワークが不可欠であるということと、国や地域を超えたつながりの重要性があらためて指摘されました。

ワーキンググループ会議

続いて、ワーキンググループごとに別室に分かれ、昨年度の活動報告と2012年度活動計画案に基づいて議論が行われました。

WG1では、リポジトリコンテンツ増進のための国際的な優良事例レポートの作成が進められており、この中には研究者に対する啓蒙活動の一事例として、日本の取り組みも紹介されています。研究機関等が、構成員に自分の研究成果をリポジトリに登録することを義務化する制度の構築の取り組みについても話題が上がっていました。

WG3では、昨年の活動に引き続いて、リポジトリマネージャーに対するオンラインワークショップの開催、リソースや教材の収集と翻訳、COAR参加メンバーへのサポート強化を継続して行っていくことが確認されていました。

2012年度以降の各ワーキンググループの活動計画は、現在も議論が重ねられており、確定次第、COARウェブサイトで公開されることになっています。

ポスターセッション

日本からのDRFを含む10のプロジェクトがポスターセッションに出展しました。こちらはDRFから出展したポスターです（図8）。リポジトリ担当者向けの研修やワークショップ、日本におけるオープンアクセスウィークの取り組みについて紹介し、休憩時間などにポスターを見た参加者から研修の具体的な内容について質問を受けたり、ぜひ自分たちも同じ取り組みを実施したいという声をいただいたりしました。

2012年度の総会では、理事会と各ワーキンググループそれぞれのレベルから、2011-2012年度の活動報告がありました。また、財政状況などを含めたCOARの現状が報告されました。また、次年度の活動報告についても簡単に報告されました。最後に理事会役員選挙が行われ、選挙の結果議長にはゲッティンゲン大学のNorbert Lossau氏が再任。ウルグアイ、ハンガリー、オーストリアから新たな役員が選出されました。日本では小樽商科大学の杉田茂樹さんがこれまで副議長を務めておられたのですが、この10月で交代となりました。

COARのこれから

今回の年次集会および総会での議論を受け、COARの2012～2015年の戦略プランおよび2012～2013年の行動計画が9月に確定され、発表されました。

戦略プランでは、COARが重点を置くべきキーワードとして、「Community」「Leadership」「Support」

ポスターセッション

- 10のプロジェクト（日本からはDRF）が出展
- 2分間でポスターを紹介
- 日本で行っている研修やワークショップ、OAWの取組について

※ポスターはCOARウェブサイトで公開されています
<http://www.coar-repositories.org/about-coar/meetings/annual-meeting-2012/presentations-and-abstracts/>

Activities of DRF
March 26, Kuala Lumpur (Digital Repository Presentation)

Over 300 Repositories*
Full-text scholarly articles will reach 3,000,000**

All 3,021 points

DRF Wiki
245,440 users

133 members

(図8)

「International」の四つが示され、そのための具体的な活動計画として、4項目が示されています（図9）。最初に挙げられているのが「国際的なコミュニティ・ネットワークのさらなる拡大」です。躍進目覚ましい中国やインドのメンバー拡充、さらに、まだ参加実績のないアフリカからの参加メンバーの獲得が目標として挙げられています。また、ラテンアメリカでは各国だけではなく南米地域全体として、リポジトリを通じてラテンアメリカ発の学術情報のプレゼンスを高めようという動きがあり、COARとしても積極的に支援・参画を行っています。

その他の活動計画として、リポジトリマネジャーのコミュニティに対するサポート体制の整備と情報の共有。リポジトリ同士の相互運用性を実現させるためのインフラの整備。さらに、COARからの情報発信を強化することで、参加メンバーに還元する付加価値を底上げすることなどが挙げられています。また、このプランには Open Repositories カンファレンスとの連携の強化も目標として挙げられています。

日本と COAR のこれから

繰り返しになりますが、国際的なコミュニティやネットワークを基盤として、オープンアクセスをめぐるファクターをトータルでサポートしていくことを目指すのが COAR の使命です。その一方で、日本においても、DRF に代表されるリポジトリ担当者のコミュニティをベースに、研修や国際会議、ワークショップ

などの取り組みを通して、リポジトリは着実に成長してきました。今回の年次集会に参加して、各国の参加者との意見交換を通じて、日本のリポジトリの取り組みに対する世界の関心の高さをあらためて感じました。世界中のリポジトリに関わる人々が、国や地域を超えて情報を共有し、意見交換を行うことができる COAR という場は非常に貴重なものであると感じます。COAR を通じて、日本の取り組みを積極的に世界へ向けて発信していくことが求められているのではないのでしょうか。

COARのこれから

- COAR strategy 2012-2015 & COAR work plan 2012-2013(2012.9発表)
- 「Community」「Leadership」「Support」「International」
 - 国際的なコミュニティ・ネットワークの拡大
 - ・ 中国・インドのメンバー拡充、アフリカの新規メンバーを
 - ・ ラテンアメリカにおけるOA支援
 - コミュニティに対するサポート体制整備と情報共有
 - 相互運用性実現のためのインフラ整備
 - 参加メンバーに還元する付加価値の強化

COAR Strategy and Workplan
<http://www.coar-repositories.org/files/COAR-Strategy-FINAL1.pdf>

(図9)